

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2017年度

芝浦工業大学 工学部 機械機能工学科

応用コース

(エンジニアリング系学士課程)
(機械及び関連の工学分野)

Mechanical Engineering II

審査分類：認定継続審査

提出日 2017年 6月 30日

1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記

芝浦工業大学 工学部 機械機能工学科

Department of Engineering Science and Mechanics College of Engineering

Shibaura Institute of Technology

(2) プログラム名

応用コース

(3) Program Title (プログラムの専門分野名の英語表記)

Mechanical Engineering II

(4) 学位名

学士 (機械機能工学)

(5) 連絡先

・ JABEE 対応責任者氏名 山田 純

所属・職名 工学部 教授 工学部長

郵便番号 〒135-8548

住所 東京都江東区豊洲 3-7-5

電話番号 03-5859-7340

ファックス番号 03-5859-7341

メールアドレス tgakuji@ow.shibaura-it.ac.jp

・ プログラム責任者氏名 松日楽信人

所属・職名 工学部 機械学群 機械機能工学科教授

郵便番号 〒135-8548

住所 東京都江東区豊洲 3-7-5

電話番号 03-5859-8000

ファックス番号 03-5859-8001

メールアドレス bjimu@ow.shibaura-it.ac.jp

1.2 プログラム概要（プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

1. プログラムの沿革

芝浦工業大学工学部機械工学第二学科は、1962年（昭和37年）12月工学部機械工学科内に別コースとして発足し、1963年（昭和38年）4月に機械工学科（第二科）と名称を定めた。その後、1966年（昭和41年）4月に機械工学第二学科として設置許可を受け、2009年（平成21年）に機械機能工学科と名称を改め、現在に至っている。

本学科では、2004年4月より「応用コース」と「基盤コース」の2コースを設け、「応用コース」においてJABEEへの取り組みを開始し、2006年11月JABEEの審査を受け、2006年4月1日～2008年3月31日の期間認定された。また、2008年12月に中間審査を受け、2008年4月1日～2011年3月31日の期間認定された。そして、2011年12月に中間審査を受け、2011年4月1日～2017年3月31日の期間認定されている。2015年度入学生からは入学生全員「応用コース」とした。以下は「応用コース」に関する現行プログラムについて示したものである。なお、2017年4月1日現在の専任教員数は教授7名、准教授5名の合計12名である。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

本学科では、地球的視野から科学技術の現状を捉え、人間環境や感性までを含めた機械工学と人間性の調和に向けた次世代の技術の姿を探る。そして、新たなる機能の創成を目指す工学・技術の知識と教養を備えた以下のような技術者を養成することを目標としている。

- ・ 人間のための独善的な機械工学の探索ではなく、地球的視野に立って機械工学の必要性を常に見直せる技術者としての倫理観および責任感を備えた技術者
- ・ 現象・事象を自ら能動的に考え、分析し、そして行動へ移すことができる技術者
- ・ 技術と資源・環境・文化・社会・経済などとの関連において、学際総合工学として人間と機械を見据えて、これらをデザインし創造していくことのできる視野と能力を備えた技術者

上記の技術者像を目標とした「応用コース」からの卒業生は2006年度12名、2007年度27名、2008年度33名、2009年度45名、2010年度47名、2011年度46名、2012年度34名、2013年度55名、2014年度29名、2015年度45名、2016年度51名、2017年度63名（予定）である。最近、当学科の卒業生の進路は、およそ70～80%が就職、20～30%が本学や他大学の大学院へ進学傾向にある。卒業生の就職先は多岐に渡るが、その大部分は製造業であり、ほとんどの者が機械技術者として活躍している。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準

「応用コース」では、学科理念を継承し、教職員と学生が一丸となり科学技術の現状の認識を相互に深め、「人間と自然」さらには「人間と地球」の共生・共存のための柔軟な技術

の姿の探索に向けての教育・研究を展開する。そして、社会の変化を見据えて新しい事態に対応できる能力、さらには、創造性とエンジニアリングセンスを高めることに大きな目標を置いている。

上記の学科の教育理念に基づき、「応用コース」では、一連の講義の他に設計・実験および体験学修等を主体とした体験科目・創成科目を多くカリキュラムに展開している。これらの体験科目・創成科目を通じて機械工学の基礎的知識やその応用を習得し、技術者として「モノを創り出す能力」と「行動力」を養成できる。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻、関連コース等）との関係

工学部機械学群には、当学科以外に独立した学科として「機械工学科」があり、機械工学科も独自に JABEE 認定されている。

機械工学科の専門体系は、以下の 6 系列として捉えられている。

- ①材料系、②流体系、③熱・エネルギー系、④振動・制御系、⑤設計・加工系、
- ⑥医用生体系

機械工学科では、3 年生進級時に「総合機械工学コース」または「基盤機械工学コース」を学生が選択でき、「総合機械工学コース」が 2007 年 JABEE 認定された。

当学科の専門体系は「物質」、「エネルギー」、「情報」の 3 領域を主要な基盤として捉え、さらにこの基盤から以下のような 8 つの教育体系に細分化している。

- ①機械力学系、②材料工学系、③生産・加工学系、④流体工学系、⑤熱工学系、
- ⑥環境工学系、⑦システム工学系・制御工学系、⑧設計工学系

当学科では、3 年生進級時に「応用コース」もしくは「基盤コース」を学生が選択でき、「応用コース」が 2007 年 JABEE 認定されている。また、2015 年度より卒業要件と JABEE 修了要件を同一とし、「応用コース」のみとした。

当学科のカリキュラムは先に示した学科理念である“モノとの対話”と“行動力の喚起”を念頭に、座学である講義科目と、以下に示す実験・実習・演習で構成している。

1 年生：「機械機能工学入門」「機械設計 1」

2 年生：「機械機能工学実験 1・2」「機械設計 2A・2B」

3 年生：「応用機械機能工学実験 A、B」「機械創成設計演習 1・2・3」
「創成ゼミナール 1・2」

4 年生：「卒業研究 1・2」

また工場見学、社会人による先端技術特別講義などの体験、OB の経験談など実学を含めて 1 年次から 3 年次まで継続して学ぶことができ、自らが学修意欲を高められるようにプログラムされている。応用コース、基盤コースとも当学科内にあることから、教育理念は同一とするが、学修・教育到達目標はコースによって以下のように異なる。

■応用コース

- ・工学技術が地球環境に与える負荷を認識できる。
- ・生態系と共生・共存を無視して独走することがないように、技術者倫理を自覚できる。
- ・国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につけることができる。

■基盤コース

- ・教養または専門の科目をより多く自由に選択でき幅広い工学の教養を身につけることができる。

5. カリキュラム上の特色

先に示したように、当学科では、「物質」、「エネルギー」および「情報」に関する3つの大分野を機械工学の基盤をなすものとして捉え、さらに8つの教育体系に細分化し、一連の教育・研究を実施している。「応用コース」では、これらの分野においての知識が偏ることのない、バランスのとれた自律的な機械技術者の育成に目標を置いている。これらの分野における専門教育は、一連の講義の他に、設計・実験および体験学修等を主体とした体験科目・創成科目を多く展開している。体験科目では、実際にモノと接し体験すると同時に、結果の解析と考察など報告書の作成を学び、創成科目では、新たなモノを創成する過程を通して、エンジニアリングデザインを身につけられるよう設計されている。

学科の体験科目の中で最も大きな特徴的な科目は、3年次に展開される創成ゼミナールと機械創成設計演習である。創成ゼミナールは教員全員参加により進められる少人数制のゼミであり、また、機械創成設計演習では、教材用スターリングエンジンの設計製作や汎用ガソリンエンジンの設計を行うことを必修としている。これらを通して、機械工学の力学である、「機械力学」、「材料力学」、「熱力学」、「流体力学」や「基礎伝熱学」および「加工学」の応用を学ぶことができる。また、3年次に未知の問題を解決できる能力を身につけることを目標とし、数学、物理学、機械工学を統合した新しい科目「機械機能解析学」を2015年度より開設し、数式を用いて現象を表現する手法を学ぶことができるようにカリキュラムを設計した。本科目は、機械機能工学の根幹とする機械力学、材料力学、熱力学、流体力学、制御・システム工学の5つの分野において、数理専門基礎科目として学ぶ、微分積分、線形代数、微分方程式、確率・統計、ベクトル解析などを発展させた現象・事例を取り上げて、そこから数式を用いて現象を表現する手法を学ぶ。工学における現象を理解し、仮説を考え、数学モデルを構築し、数学のテクニックを用いて解き、得られた解の物理的な意味を解釈し、数学モデルを検証した上で、数学モデルによる発展的な解析を行う能力を身につけることができる。

4年次では、カリキュラムの主体を卒業研究関連科目で占めるように配置し、学修の集大成として卒業研究に集中できる。この卒業研究を通じて機械工学全般の学修のみならず、技

術者・研究者として必要な総合的な能力を身につけることができる。卒業研究が円滑に進められることを考慮して、卒業要件を満たすのに必要な未取得単位（卒業研究を除く）が2科目以内を卒業研究着手の条件としている。

6. その他の特色

機械機能工学科は伝統的に学科設立の趣意に基づき「卒業研究」を重視している。「機械機能工学入門」、「機械機能工学実験1・2」、「応用機械機能工学実験A・B」および「創成ゼミナール1・2」は、少人数による実験や体験における双方向教育を実施し、「卒業研究1・2」への移行をスムーズにすることを念頭に置いている。

「基盤コース」の卒業要件は大学の学則および学修に関する規則に基づき、専門科目と共通・教養科目の成立条件を満たし、総単位数124単位以上の取得が必要である。124単位以上を取得する中には、少なくとも64単位の専門科目と45単位の共通・教養科目を含めば、残りは専門科目、共通・教養科目のどこからでも自由に単位を取得することができる。

「応用コース」を選択した場合、大学の卒業要件を満たし、さらに「応用コース」の条件である学修・教育到達目標AからHの目標に掲げている科目の取得と、JABEEの機械工学専門分野に設定されている授業時間を満たす必要がある。

1.3 最近の教育改善活動の状況

1. 教育活動（基準 1-3）の点検と改善

学科固有の科目や教育に関わる事項は、学科会議および学科 JABEE 委員会にて教員全員で検討し、必要に応じてカリキュラム担当教員が科目担当者と個別に対応している。また、学科内で 5 分野の教員間ネットワークを組織し、成績判定基準、科目間の連続性を検討している。共通系科目に関しては、学生課を通じて共通系教員から書面による連絡が行われ、各学年担任が対応している。また、教育開発本部（本学科から 1 名）、教育イノベーション推進センター（本学科から 1 名）において共通学群教員と意見交換している。

とくに毎年 8 月頃に FD 集中研修会として全員で重要な課題を議論している。クォーター化や試験問題の確認による科目間の連続性についても議論がなされた。また、継続性の観点から 2015 年度より本学機械工学科と相互評価を実施する仕組みを設けている。

2. 最近の教育改善活動

2015 年度入学生から入学者全員の卒業要件を JABEE 修了要件と同一とし、プログラムが育成しようとする技術者像を社会のニーズを元に学生にわかりやすくまとめ直した。

8 つの到達目標に対しても各科目と学修・教育到達目標との対応を時系列で示す表を作成し、学修・教育到達目標の達成への関与の度合いが大きい科目に対して◎印で示しているなど、学生にとってわかりやすくした。

3 年次に未知の問題を解決できる能力を身につけることを目標とし、数学、物理学、機械工学を統合した新しい科目「機械機能解析学」を 2015 年度より開設し、数式を用いて現象を表現する手法を学ぶことができるようにカリキュラムを設計した。

3. 当該プログラムの教育に関して、教育改善のための研究活動や発表など

2013 年度には学科全体としての取り組み（ロボット製作を取り入れた演習授業）で優秀教育教員賞を受賞した。また、2014 年度にはグローバル化を目指して留学生向けに授業を英語化した活動（応用機械機能工学実験における留学生受け入れ事例）で、学科として梅村魁記念賞を受賞した。

1.4 自己点検結果編の総括文

基準 1（学修到達目標の設定と公開）については、2015 年度入学生より卒業要件を JABEE 修了要件と同一とし、学修到達目標の設定とともに社会のニーズを元に学生にわかりやすく学修の手引きや Web に示した。

基準 2（教育手段）については、カリキュラムの中で科目の位置付けや流れを表にし、学修の手引きでわかりやすく示した。グローバル化に対しても gPBL を積極的に行い、学生の異文化への関心を高めるように毎回改善をしている。

基準 3（学修到達目標の達成）については、シラバスに科目ごとに達成目標、評価方法と

評価基準、対応する学修到達目標が明記され、それに従って評価している。卒業研究についてはルーブリックで評価基準を明確にし、達成度を評価している。

基準4（教育改善）は教員間ネットワークや各社リクレーターへのアンケートにより、常に社会のニーズを把握しながら教育改善WGで検討をしている。

以上、機械機能工学科ではPDCAサイクルを回しながら、プログラムが健全に実施されている。

自己点検書

(2 . 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2017年度

芝浦工業大学 工学部 機械機能工学科
応用コース

(エンジニアリング系学士課程)
(機械及び関連の工学分野)

Mechanical Engineering II

審査分類：認定継続審査

提出日 2017年 6月 30日

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
- ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても400文字程度を目安）。
- ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても400文字程度を目安）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
- ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。
添付資料、現地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
なお、整理番号は、添付資料と現地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：TxxとJxx）。
この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表5及び表6の一覧表を作成してください。
Webページで公開されているものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	◎	学科「ディプロマポリシー」に記載されている。本プログラムで育成する技術者像として、「科学技術の現状の克服と人間性の調和に向けた、21世紀のしなやかな技術の姿を探り、創造性と人間性豊かな等身大の技術者像」を定めている。2015年度入学生から入学者全員の卒業要件をJABEE修了要件と同一とし、プログラムが育成しようとする技術者像をわかりやすくまとめ直した。	2015年度入学生から入学者全員の卒業要件をJABEE修了要件と同一とし、プログラムが育成しようとする技術者像をわかりやすくまとめ直した。	【T01】2017年度学修の手引（機械機能工学科・抜粋） 【J01】技術士制度説明会
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	◎	上記の技術者像は、本学の建学の精神「社会に学び社会に貢献する技術者」および当学科の理念「モノとの対話」、「行動力」を踏まえたものである。また、卒業生の大部分は製造業へ進むことから「モノづくり」のできる技術者を強く意識したものである。卒業生の進路のほとんどに置いて求められる資質であることを念頭に、2015年度入学生から入学者全員の卒業要件をJABEE修了要件と同一とした。	卒業生の進路のほとんどに置いて求められる資質であることを念頭に、2015年度入学生から入学者全員の卒業要件をJABEE修了要件と同一とした。	【T02】卒業生の進路状況
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	◎	企業に就職した卒業生がリクレーターとして当学科に訪問時に行う卒業生評価アンケートおよび就職後の活動状況調査アンケート、卒業時に行う学生生活に関する教育評価アンケート、さらにホームカミングデー（大学同窓会）や里帰りゼミに参加する卒業生からは大学に対する要望等を受け入れている。	変更なし	【K34】学生による教育評価アンケート 【K35】合同企業説明会アンケート 【T03】卒業生へのホームカミングデー案内および参加者数 【T04】里帰りゼミ実施記録
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	◎	大学Webページで公開されている。本プログラムの教育理念、目的、学修・教育到達目標達成のための教育方法および学修・教育到達目標達成のための対応科目についての内容を2004年4月1日より当学科のwebページに掲載している。また、工学部JABEE推進委員会「芝浦工業大学JABEEへの取り組みVOL.1～10」という冊子を発行し、学内関係教職員や学生に配布していた、2014年度からは配布資料を学科独自のガイダンス資料に変更した。2015年度からは入学者全員の卒業要件がJABEE修了要件と同一になったため、応用コースガイダンス資料を廃し、学修の手引で周知する事になった。	2015年度からは入学者全員の卒業要件がJABEE修了要件と同一になったため、応用コースガイダンス資料を廃し、学修の手引で周知する事になった。	機械機能工学科Webページ http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/ 【T01】2017年度学修の手引（学修・教育到達目標・抜粋）
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	大学Webページで公開されている。上記の冊子「芝浦工業大学JABEEへの取り組みVOL.1～10」、2014年度からは「JABEEへの取り組み」を本プログラムに関わる教員および学生に配布し本プログラムの内容を周知している。特に、新入生には、毎年、オリエンテーションにおいて本冊子や2014年度からは学科独自の機械機能工学科応用コースガイダンス資料をもとに本プログラムの説明を行っている。2015年度からは入学者全員の卒業要件がJABEE修了要件と同一になったため、応用コースガイダンス資料を廃し、学修の手引で周知する事になった。	2015年度からは入学者全員の卒業要件がJABEE修了要件と同一になったため、応用コースガイダンス資料を廃し、学修の手引で周知する事になった。	【T01】2017年度学修の手引（機械機能工学科・抜粋）

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	◎	本プログラムの学修・教育到達目標は(A)～(H)が設定されているが、これらは本学科の理念「モノとの対話」「行動力」を念頭に設定されたものであり、カリキュラムは講義科目以外にも実験・実修・演習や工場見学および社会人やOBによる特別講義等の実学を多く配置し、「モノづくり」のための基礎教育に力を入れた目標となっている。	変更なし	【T01】2017年度学修の手引(学修・教育到達目標・抜粋) 【J02】特別講師招聘
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(a)は、学修・教育到達目標の(A)および(B)により主に育成する。また、学修・教育到達目標の(C)および(F)により付随的に育成する。 与えられた問題を工学のみに囚われず、人間環境および感性をも含めた総合的な視点から考えることのできる能力を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(b)は、学修・教育到達目標の(C)により主に育成する。 工学が人類・社会に果たす役割を十分に認識し、技術者として独善的になることのないようバランスの取れた倫理観を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(c)は、学修・教育到達目標の(E)により主に育成する。また、学修・教育到達目標の(D)に付随的に育成する。 機械工学の基盤である力学(機械力学、材料力学、熱力学、流体力学)の知識を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(d)は、学修・教育到達目標の(A)、(D)および(E)により主に育成する。また、学修・教育到達目標の(E)および(F)により付随的に育成する。 「物質」、「エネルギー」、「環境」および「情報」を基盤とした機械工学の知識を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(e)は、学修・教育到達目標の(A)により主に育成する。また、学修・教育到達目標の(D)により付随的に育成する。 課題を自律的に捉え、機械工学の基礎知識を基に調査・検討し、さらに、プレゼンテーションを通して目的を総合的に達成する能力を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(f)は、学修・教育到達目標の(F)および(G)により主に育成する。また、学修・教育到達目標の(A)により付随的に育成する。 国際的なコミュニケーションで要求される英語会話の能力を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(g)は、学修・教育到達目標の(F)により主に育成する。 自律的に問題をとらえ、自ら継続的に学修する能力を身につける。	変更なし	機械機能工学科webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(h)は、学修・教育到達目標の(A)および(F)により主に育成する。 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	◎	添付資料編表1に示すように、知識・能力(i)は、学修・教育到達目標の(H)により主に育成する。 自分と他者の役割を理解し、チーム目標の達成のために行動する力を身につける。	変更なし	機械機能工学科Webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	◎	達成度総合評価シートを学生に配布(Webページからダウンロード可)し、学修・教育到達目標(A)～(H)に対する科目の成績を点数化し、学修・教育目標の各項目の達成度の総合評価を行うようにしている。各科目の評価水準はシラバスに記載されている。また、卒業研究1・2の水準判定はルーブリックを用いている。2015年度入学生からは全員が応用コースとなっているため、S*gsotによる履修登録確認が達成度確認と同一となっている。このとき学修・教育到達目標との対応は学修の手引に示されている。	2015年度入学生からは全員が応用コースとなっているため、S*gsotによる履修登録確認が達成度確認と同一となっている。このとき学修・教育到達目標との対応は学修の手引に示されている。	【T05】 達成度総合評価シート (2014年度入学生) 【T06】 卒業研究1・2_学習成果ルーブリックシート 【T07】 機械機能工学科の学修・教育到達目標についての補足
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	◎	機械機能工学科Webページや学修の手引により広く学内外に公開されている。	変更なし	機械機能工学科Webページ http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/ 【T01】 2017年度学修の手引 (機械機能工学科・抜粋)
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	教員向けには教員ハンドブックにて周知している。 2014年度までは新入生に「JABEEへの取り組み」と「機械機能工学科応用コースガイダンス資料2009年～2014年」を配布し周知していた。2015年度からは入学者全員の卒業要件がJABEE修了要件と同一になったため、応用コースガイダンス資料を廃し、学修の手引で周知する事になった。	変更なし	【R01】 教員ハンドブック2017年度p137～p145 学科パンフレット(インフォメーション) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/ 【T01】 2017年度学修の手引 (機械機能工学科・抜粋) 【T07】 機械機能工学科の学修・教育到達目標についての補足
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計されていますか？	◎	設定項目(a)～(h)に対応する、次の(A)～(H)の8つの学修・教育到達目標を設定し、それに対応する各科目を表4に示すように配置している。この表において各科目と学修・教育到達目標との対応を時系列で示し、学修・教育到達目標の達成への関与の度合いが大きい科目に対して◎印で示している。本コースにおける学修結果の集大成である卒業研究1・2を通じて機械工学全般の学修のみではなく、技術者・研究者として必要な総合的な能力を養成する。	学修の手引(表2)を追加することで、明確に示されている。	添付資料編(表4) 【T01】 2017年度学修の手引 (機械機能工学科・抜粋)
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	カリキュラムは「学修の手引」として新入生に配布している。また大学Webページでも公開している。 教員に対しては、例年8月または9月の学科FD研修会学科会議で開示しており、学科開講科目の個々の内容、開講年次を検討している。 学生に対しては、入学時のガイダンスにおいて「学修の手引」を配布し、新入生オリエンテーションなどで詳細に解説することで開示している。また、当学科webページにおいても、学科の教育方針、カリキュラム構成、学年次と分野間の融合について図示し開示している。	変更なし	学修の手引 : http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 機械機能工学科Webページ http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/ 【T01】 2017年度学修の手引 (機械機能工学科・抜粋) 【T08】 学科集中FD研修会議事録 【J03】 教員間ネットワーク議事録
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	◎	「学修の手引」各科目とプログラムの学修・教育到達目標との対応関係を明示している。 各科目と(A)～(H)の8つの学修・教育到達目標との対応関係は、学修の手引に表1「学修・教育到達目標対応表(専門科目)」を追加し、明確に示されている。	各科目と(A)～(H)の8つの学修・教育到達目標との対応関係は、学修の手引に表1「学修・教育到達目標対応表」を追加し、明確に示されている。	学修の手引 : http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 Web版シラバス : http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 機械機能工学科webページ (JABEE関連) http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html 【T01】 2017年度学修の手引 (機械機能工学科・抜粋_表1表2)
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	◎	総取得単位数124単位のうち、当該分野にふさわしい数学、自然科学及び科学技術に関する内容の96単位数が全体の60%以上であることを確認しているため、基準を満たしている。 応用コースを選択した学生の学修・教育到達目標(A)～(H)に対するすべての該当科目達成の一覧表、学生個人の学修・教育到達目標の各項目に対する達成度の総合評価を基に、修了判定を教員全員で行っている。	変更なし	【T01】 2017年度学修の手引 (機械機能工学科・抜粋_表3) 【T09】 第1510回JABEE委員会議事録 【J04】 応用コース履修者の「学修・教育到達目標」の各項目に対する達成度の総合評価

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成されていますか？	◎	(A)～(H)の8つの学修・教育到達目標に対応する全ての科目についてシラバスを作成している。 2017年度から、これまでのシラバス(授業の概要、達成目標、授業計画(全14回、授業時間外課題(予習及び復習を含む))、評価方法と基準、教科書・参考書、履修登録前の準備、学修・教育到達目標との対応、オフィスアワー、質問・相談の方法、環境との関連)の10項目に加えて、合格点の評価基準を明確に記載し、達成目標に対する評価方法における割合を明示するようにしている。また、学科内の担当教員でシラバス点検を行い、その後科目担当教員がシラバスを修正し、その後さらに別の教員にて点検するようにしている。	変更なし	Web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【T10】2017年度シラバス記載内容のチェックについて(第1611回主任会議資料) 【T11】シラバスチェック関連議事録
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	大学Webページにて学内外に公開されている。 学科開講の専門科目群、共通・教養科目群のシラバス・授業計画は、検索できるようにwebページ上に公開されている。	変更なし	Web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	◎	Web版シラバスの標準書式として、それぞれの科目のカリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準がある。また、学修・教育到達目標の項目に対する対応がなされている。 カリキュラム中の各科目シラバスの位置付けは学修の手引に示されており、教育課程の内容・計画を学修目的に沿った配列、すなわち学生自身が興味を持ち学んでみたい、あるいは将来進みたい専門分野・業種・職種に向けた計画を立て易いように履修科目の配列に工夫をして表に示されている。教育内容・方法、達成目標、成績評価方法・評価基準などはそれぞれの各科目シラバスに掲載されている。なお、2017年度のシラバスから、合格点の評価基準を、問題のレベルとして明確に記載し、また達成目標に対する評価方法における割合も明示している。	シラバスの「授業計画」に授業時間外課題(予習および復習を含む)および必要学修時間が追記された。また、「達成目標に対する評価対応と割合」の項目が追加された。 学修の手引(表2)のを追加することで、明確に示されている。	Web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 添付資料編(表4) 【T01】2017年度学修の手引(機械機能工学科・抜粋_表2)
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	◎	授業時間は2016年度以前では、90分15回授業となっている。2017年度より、授業時間は100分14回と定められており、「学修の手引」に記載されている。またこれに基づき時間割の編成を行い、「授業時間割表」に掲載している。 なお、2017年度のシラバスから、各授業内容に対する予習や復習を明記し、それに対する予習・復習時間も明記している。	授業時間は2016年度以前では、90分15回授業となっている。2017年度より、授業時間は100分14回と変更となった。	Web時間割： http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/ 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 Web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	◎	各教員は担当科目の講義の内容とシラバスとを確認しながら適切な授業の進行による教育の実施に努めている。休講した際は、必ず補講を行うことでシラバスに従った教育を実施するようにしている。また、学生はシラバスで授業の進捗状況が確認できる。	変更なし	Web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	◎	大学組織として、教育イノベーション推進センター、キャリアサポート課、学術情報センターが設置され学修支援を実施し、図書館は試験期間中及び日曜日も開放されている。各科目のシラバスには授業時間外課題が示されている。	各科目のシラバスに授業時間外課題(予習および復習を含む)が追記された。	教育イノベーション推進センター： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/index.html キャリアサポート課： http://www.shibaura-it.ac.jp/career_support/index.html 学術情報センター： http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 図書館： http://lib.shibaura-it.ac.jp/ Web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	◎	クラス担任制度を導入し、個別対応を実施している。成績不振者に対してはクラス担任が個別面談を行い、学修・履修指導を行っている。 S*gsotのシステムから、通常の成績とは別に作成した学修・教育到達目標の達成度（JABEE達成表）を確認できる。 学生自身による達成状況の点検は、「学修・教育到達目標の各項目に対する達成度の総合評価」の表を用いることで達成度を理解できる。本表は、本学科Webページからダウンロードできる。学生自身で達成度を確認できるようにしている。	変更なし	【K02】工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 【K03】学修指導マニュアル 【K04】S*gsot画面JABEE達成表 機械機能工学科Webページ（JABEE関連） http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html 【J04】「学修・教育目標の各項目に対する達成度の総合評価」
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	◎	各科目における学生自身の達成度を確認させる手段として、年度始めのガイダンスにおいて履修登録状況を提出させている。表4及び学修の手引(表1)を示すことで、各科目と学修・教育到達目標の対応を確認させ、円滑に履修登録が行えるように指導している。また、クラス担任教員による履修指導、成績内容の個別指導、成績優秀者への個別指導なども行っている。	変更なし	添付資料編(表4) 【T01】2017年度学修の手引(機械機能工学科・抜粋表1) 【J04】「学修・教育目標の各項目に対する達成度の総合評価」
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	◎	教員は5年ごとの再審査制度が導入されている。教育支援体制として、クラス担任制度、TA制度、SA制度、国際プログラム推進課、工学部学習サポート室などがある。教員への教育支援体制として、研究推進室研究企画課、知財・契約担当が設置され、有効に活用されている。 カリキュラム主要科目を専任教員が担当する基本理念の実施に十分な12名の専任教員と1名の特任教員が存在している。学科運営の執行体制と支援組織、教育基盤としての実験・実習支援、指導教育機会を与えるTA・SA制度、留学生支援、基礎学力強化のための基底科目・学習サポート室、公共性・倫理観を養うための特別講師招聘などの教育支援体制がある。	変更なし	【K05】教員資格審査規程 【K02】工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 【K06】芝浦工業大学ティーチング・アシスタント規程 【K07】芝浦工業大学学生チューデント・アシスタント規程 工学部学習サポート室Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html 【K08】大学組織図 【T12】機械機能工学科継続的システム(PDCA) 【J05】教員プロフィール 【J02】特別講師招聘
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	◎	工学部教授会、工学部学群・学科主任、科目代表者会議、工学部JABEE推進委員会、工学部教育開発本部、教務委員会、などがある。 学科固有の科目や教育に関わる事項は、学科会議および学科JABEE委員会にて教員全員で検討し、必要に応じてカリキュラム担当教員が科目担当者として個別に対応している。また、学科内で5分野の教員間ネットワークを組織し、成績判定基準、科目間の連続性を検討している。共通系科目に関しては、学生課を通じて共通系教員から書面による連絡が行われ、各学年担任が対応している。また、教育開発本部（本学科から1名）、教育イノベーション推進センター（本学科から1名）において共通学群教員と意見交換している。	変更なし	【K09】工学部教授会開催通知 【K10】工学部学群・学科主任、科目代表者会議議事録 【K11】工学部JABEE推進委員会開催通知 工学部教育開発本部Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/faculty_development/educational_development_on_engineering/aim.html 【K12】工学部教育開発本部議事録 【K13】教務委員会議事録 【T13】教員間連絡ネットワーク関連資料 【T12】機械機能工学科継続的システム(PDCA) 【J03】教員間ネットワーク議事録

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	◎	工学部教授会、工学部学群・学科主任、科目代表者会議は、年間11回の部門会議を開催しており、工学部JABEE推進委員会、工学部教育開発本部、教務委員会も開催され議事録が作成開示されている。 学部レベルの教員間連絡ネットワーク組織である、教育開発本部の各委員会に当学科から参画している。学科内では学科会議および学科JABEE委員会にて各種の活動および検討がなされている。また、学科内5分野の教員間ネットワークでは、定期的にミーティングを実施し、カリキュラム構成に講義内容が沿っているかを教員間で確認している。	変更なし	【K09】工学部教授会開催通知 【K10】工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知 【K11】工学部JABEE推進委員会議事録 【K12】工学部教育開発本部開催通知 【K13】教務委員会開催通知 【T14】第1601回JABEE教育改善WG議事録 【T13】教員間連絡ネットワーク関連資料 【J06】学科内関連委員会議事録(学科JABEE委員会議事録)
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み(ファカルティ・ディベロップメント)を推進する仕組みがありますか？	◎	大学全体として、教育イノベーション推進センターが常設されている。 年度初めにはFD・SD講演会が開催されている。また、研究推進室による競争的資金、共同研究、知財、コンプライアンス等に関する説明会が開催されている。 2013年度から最大5年間、文部科学省のグローバル人材育成推進事業(タイプB:特色型)に採択され、教員の総合的なグローバル教育力の向上の取り組みも行われている。さらに、2013年秋には文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活動している。 学科内では、学科JABEE委員会の教育改善WGでFDを推進する仕組みとして存在している。	2013年度から最大5年間、文部科学省のグローバル人材育成推進事業(タイプB:特色型)に採択され、教員の総合的なグローバル教育力の向上の取り組みも行われている。さらに、2013年秋には文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活動している。	教育イノベーション推進センターWebページ http://www.shibaura-it.ac.jp/education/index.html 【K14】2017年度FD・SD講演会および2016年度優秀教育教員の顕彰について 【K15】コンプライアンス説明会(兼競争的資金執行説明会)開催について 芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業 http://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/ghrd.html 男女共同参画推進室 http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/about/greeting 【T14】第1601回JABEE教育改善WG議事録
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	工学部教育開発本部の規程は全て教授会の審議を経た上で承認・制定され学校法人芝浦工業大学規定集に収められて、各部門構成は大学Webページで公開されている。「教育イノベーションセンターIR部門」、「芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業」や「女性研究者研究活動支援事業」の活動は、「チャレンジSIT-90」作戦(2015年度より「Centennial SIT Action」に移行)の報告書や男女共同参画推進室の大学Webページなどで公開されている。 学科JABEE委員会において、上記仕組みが開示されている。	「教育イノベーションセンターIR部門」、「芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業」や「女性研究者研究活動支援事業」の活動は、「チャレンジSIT-90」作戦(2015年度より「Centennial SIT Action」に移行)の報告書や男女共同参画推進室の大学Webページなどで公開されている。	【K16】工学部教育開発本部規程 工学部教育開発本部Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/education/faculty_development/educational_development_on_engineering/aim.html 芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業 http://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/ghrd.html Centennial SIT Action http://www.shibaura-it.ac.jp/about/centennial_sit_action/index.html 男女共同参画推進室 http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/about/greeting 【J06】学科内関連委員会議事録(学科JABEE委員会議事録)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	年度初めに全学FD・SD改革推進委員会による学内外講師を招いてFD講演会を開催し、優秀な教育成果を納めた教員の表彰も行っている。また、2008年4月よりスタートした「チャレンジSIT-90」作戦により、7つの挑戦に沿って各教学機関が改革項目を立て、PDCAサイクルを展開していく自律的学改革運動を実施している。2015年度からは「創立100周年に向けた大学戦略プラン（Centennial SIT Action）行動計画書」として発展した。特に、「男女共同参画推進室」は、男女共同参画推進シンポジウムを開催するなど、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活発に活動を行っている。 学科内では、定期的に学科JABEE委員会にてFD活動に関する議論・情報共有を行っている。また、夏季休暇中には学科集中FD研修会を実施し、学科理念や大学全体の教育方針と学科カリキュラムの整合性を詳細に見直している。更に学科JABEE委員会の活動内容を学科全教員に電子メールで配信し、学科会議および学科JABEE委員会にて報告、定期的に学科内FDのPDCAサイクルを確認している。	2008年4月よりスタートした「チャレンジSIT-90」は、2015年度からは「創立100周年に向けた大学戦略プラン（Centennial SIT Action）行動計画書」として発展した。特に、「男女共同参画推進室」は、男女共同参画推進シンポジウムを開催するなど、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活発に活動を行っている。	【K14】2017年度 FD・SD講演会および2016年度優秀教育教員の顕彰について Centennial SIT Action http://www.shibaura-it.ac.jp/about/centennial_sit_action/index.html 男女共同参画推進室 http://plus.shibaura-it.ac.jp/diversity/about/greeting 【T08】学科集中FD研修会議事録 【T12】機械機能工学科継続的改善システム（PDCA）
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それによって教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	◎	教育・研究等業績評価（自己評価方式）を実施している。その目的は、教員各自が、自身の諸活動について目標と達成度を明確にし、不断の改善へとつなげることである。評価項目の筆頭には教育活動が掲げられ、学士課程教育への貢献、学生支援活動等が評価される。評価方法は、年度当初に、個人の達成目標と活動計画を『目標計画書』に記述し、貢献比率を自身の計画に基づき設定し、学部長を経由して学長に提出される。また、教員資格の再審査制度を制定し、教員が着任もしくは昇格してから5年ごとに教育・研究等業績の再評価を所定の書式に基づいて実施し、その結果を本人にフィードバックすることで教員の改善意欲を継続的に高めている。教員が学内又は社会における教育活動及び学内運営に関する活動によって優れた業績を挙げた場合、これを顕彰する制度として梅村魁記念賞（平成2年～平成28年）がある。平成29年度より、この梅村魁記念賞の意志を引き継ぎ制定された「学長賞（教育）」において、新たな顕彰規程の元、教員の優れた教育活動業績に対して顕彰を行っている。	平成29年度より、この梅村魁記念賞の意志を引き継ぎ制定された「学長賞（教育）」において、新たな顕彰規程の元、教員の優れた教育活動業績に対して顕彰を行っている。	【K17】芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 【K18】工学部教員資格審査委員会審査方法内規 【K19】梅村魁記念賞規程 【K20】学長賞規程
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教育・研究等業績評価実施状況、教員業績情報システムを介して入力された各種情報は、データ更新の翌日には更新され大学Webページ（教員データベース）で公表される。学長賞（教育）の候補者は、各学科主任から学長に推薦され、毎年創立記念式典にて表彰されている。	平成29年度より、学長賞（教育）の候補者は、各学科主任から学長に推薦され、毎年創立記念式典にて表彰されている。	教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 【K21】梅村魁記念賞候補者の推薦について 【T15】教育・研究等業績評価シート提出状況
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	◎	年度末に、達成目標に対する達成度および改善点を『自己評価書』に記述し、学部長を経て学長に提出する。学部長は、各教員の活動計画と自己評価結果を総覧し、特に改善を要する教員に対して、助言を行うとともに必要に応じて個人面談を実施している。本プログラムの教員は全員、3月末に実施される自己評価に参加しており、次年度の教育改善に役立てている。5年毎の再審査結果は本人にフィードバックされている。 本学科からも複数の教員が受賞している。2013年度には学科全体としての取り組み（ロボット製作を取り入れた演習授業）で本教育賞を受賞した。また2014年度にはグローバル化を目指して留学生向けに授業を英語化した活動（応用機械機能工学実験における留学生受け入れ事例）で、学科として梅村魁記念賞を受賞した。	変更なし	【K22】教育・研究等業績評価の実施および自己評価の入力について 【K23】教育・研究等業績評価シート（目標計画書・自己評価書） 【K24】梅村魁記念賞 受賞者一覧 【K14】2017年度 FD・SD講演会および2016年度優秀教育教員の顕彰について 【T16】芝浦工業大学優秀教育教員顕彰規程 【T17】優秀教育教員顕彰受賞者リスト
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	◎	大学全体、工学部、学科でそれぞれアドミッションポリシーを定めている。これに基づいて一般入試（大学入試センター利用方式、前期日程、全学統一日程、後期日程）、特別入試（外国人留学生特別選抜、帰国生特別、学士・編入学試験）および推薦入試（指定校推薦、併設校推薦）が実施されている。	変更なし	大学Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/policy.html 工学部Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/index.html 一般入学試験要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/index.html 大学基礎データ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe0000005guo-att/sqipbe0000005h1h.pdf
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	入試制度については工学部教授会で審議されている。一般入試および特別入試、学士・編入学試験については要項として学内外に公開されている。推薦入試については該当高校に開示している。	変更なし	一般入学試験要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/index.html 大学Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/policy.html
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	◎	選抜方法については、入学試験の形態、適切な試験科目の配分、指定高校の推薦枠などを入試委員会にて検討の上、教授会にて承認を得て入学試験を実施している。	変更なし	【K25】第1602回工学部学群・学科主任、科目代表会議資料（2）
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	2014年度入学生までは、機械機能工学科では応用コースへの進学条件を設けている。2年次終了時にこれらの条件を全て満たし、応用コース履修を希望し、かつ適していると判断された学生に対して、応用コースへの進学を認めている。進学条件を満たしていなくても、応用コース履修を強く希望する学生には、未取得科目の調査し、複数教員による面接で、応用コースの履修可能と判断された場合には進学を認めている。具体的な進学条件はJABEEへの取り組みに定めている。2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっており、すべての学生が応用コースを履修する。	2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっており、すべての学生が応用コースを履修するために面接は実施しない。	機械機能工学科Webページ（JABEE関連） http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html 【T01】2017年度学修の手引（機械機能工学科・抜粋_表2）
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	機械機能工学科Webページと、学生に配布の「学修の手引」によって教員、学生に開示している。	2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっていることが、学修の手引で開示されている。	機械機能工学科Webページ http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/ 機械機能工学科Webページ（JABEE関連） http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/class_jabee.html 【T01】2017年度学修の手引（機械機能工学科・抜粋）
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の決定が行われていますか？	◎	2014年度入学生までは、応用コースへ進学を希望する学生には、学科主任・学年担任など複数の教員が面接を実施する。なお、2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっており、すべての学生が応用コースを履修するために面接は実施しない。	2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっており、すべての学生が応用コースを履修するために面接は実施しない。	【T18】応用コース進学希望者の面接記録
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それに従って履修生の編入が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	大学全体として編入学・学士入学の試験方法を定めている。 単位の振替認定に関しては、本学では学外単位等認定制度規程がある。原則としてこの規程に基づき単位の評価・認定を行い、その上で他の高等教育機関で取得済みの講義科目の内容について精査を行い、本学科の応用コース履修が可能であるかを判断している。	変更なし	【K36】 芝浦工業大学編入学規程 編入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/transfer_exam.html 学士入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/bachelor_exam.html 【K26】 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	試験内容を具体的に定めた編入学・学士入学の試験要項を学外に公開している。 応用コースへの編入学に関する事項については学科Webページに掲載している。	変更なし	編入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/transfer_exam.html 学士入学試験Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/special_exam/bachelor_exam.html 機械機能工学科Webページ http://www.meo.shibaura-it.ac.jp/
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	◎	編入の規則はあるが、これまで編入は行われていない。	変更なし	
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的な方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	転部転科規程・内規および試験要項として定められている。 2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっており、学科内他コースへの異動は生じない。	前回の受審時は、「本プログラムでは学科内他プログラムとの学生の異動を認めていない」となっていたが、2015年度入学生からは全員が応用コースのため、他コースへの異動は生じない。	【K27】 転部転科募集要項 【K37】 芝浦工業大学転部及び転科規程 【K38】 芝浦工業大学転部及び転科規程運営内規
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的な方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	◎	転部転科試験要項として学内に公開している。 2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっており、学科内他コースへの異動は生じない。	前回の受審時は、「本プログラムでは学科内他プログラムとの学生の異動を認めていない」となっていたが、2015年度入学生からは全員が応用コースのため、他コースへの異動は生じない。	【K27】 転部転科募集要項
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の異動が行われていますか？	◎	転部転科試験要項に基づき履修生の異動を実施している。 2015年度入学生以降は、応用コースに定められている単位を取得することが卒業要件となっており、学科内他コースへの異動は生じない。	前回の受審時は、「本プログラムでは学科内他プログラムとの学生の異動を認めていない」となっていたが、2015年度入学生からは全員が応用コースのため、他コースへの異動は生じない。	
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	◎	大学全体としては、校地面積・校舎面積とも大学設置基準を満たしており、プログラム実施に支障のない教室・実験室が確保・整備されている。PC室については、ほぼ5年に1回の割合でコンピュータの大幅な更新を行っている。図書館では、自習室を完備し、学生による選書ツアーも行っているほか、留学生を対象としたイベントも実施している。学生の休憩場所は、校舎内に適宜準備されている。国際交流活動の場であるグローバルラーニングcommons（豊洲・大宮キャンパス）、国際学生寮、至近に東大宮学生寮（大宮キャンパス）が設置されている。研究室・実験室については、年1回の割合で整備状況をチェックしている。	国際交流活動の場であるグローバルラーニングcommons（豊洲・大宮キャンパス）、国際学生寮、至近に東大宮学生寮（大宮キャンパス）が設置された。	大学基礎データ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000005guo-att/sqipbe0000005h1h.pdf 大学データ集 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000005guo-att/sqipbe0000005h1l.pdf 国際学生寮、東大宮学生寮 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/dormitories.html グローバルラーニングcommons http://www.shibaura-it.ac.jp/news/2016/40160049.html http://www.shibaura-it.ac.jp/news/2017/40170040.html CAMPUS GUIDE 2017 p40~46 http://www.shibaura-it.ac.jp/book/campus_guide_2017/ 学術情報センター http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	◎	大学全体としては、収入の中心である学生生徒等納付金が安定的に確保されているとともに、支出の中心を占める人件費が適正な水準で推移しており、財源が堅調に推移しながら確保されている。大学から学科への予算については、学科在籍学生数が反映された教育経費、教員数が反映された研究用経費、そして各学科一律の設備経費に分かれて安定的に配分されており、学科の施設、設備を維持・運用・更新するための予算が確保されている。	変更なし	大学基礎データ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000005guo-att/sqipbe0000005h1h.pdf 大学データ集 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/sqipbe000005guo-att/sqipbe0000005h1l.pdf
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	◎	クラス担任により各学年の学生のサポートを行っている。あわせて、工学部学習サポート室を開室し、基礎科目の学習サポートを行っている。ほか、TA制度が設けられている。図書館では、各種サービスを行う窓口があり、自習室が設けられている。さらに、試験期間中およびその前の一定期間に休日開館を実施し学生に学習スペースを提供している。学術情報センター（PC室）では、相談窓口が設置しており、学生の相談にのる仕組みがある。 男子学生に比べると、割合が少ない女子学生をサポートするために、教員と女子学生の交流会を年に数回実施しており、できる限りの配慮をしている。女性教員の採用についても将来的な課題として検討中である。 また、人文社会系科目で一部豊洲校舎で時間的に履修しにくい科目があり、このような点に関しては共通学群と調整・協議を継続中である。	大宮校舎と豊洲校舎間の無料シャトルバスが、週1便だったものが2015年6月から週3便に増便された。これにより大宮と豊洲を行き来する学生の便宜がある程度図れるようになった。	【K03】学修指導マニュアル 工学部学習サポート室Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html 図書館Webページ：http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 学術情報センター：http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ CAMPUS GUIDE 2017 http://www.shibaura-it.ac.jp/book/campus_guide_2017/
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	◎	入学時に、冊子「Campus Guide」「学修の手引」を全員に配付して、図書館利用方法、PC室利用方法、クラス担任制度、科目履修方法、学習サポート室などの周知を行っている。あわせて、大学Webページでも同様の内容を公開している。	変更なし	CAMPUS GUIDE 2017 http://www.shibaura-it.ac.jp/book/campus_guide_2017/ 学修の手引：http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	工学部学習サポート室では、平日の午後に数学、物理学、化学、英語の学習サポートを実施している。またTA制度や図書館、およびPC室のサポートも行っている。そのほか、奨学金支援などのサポートも実施している。 オフィスアワー、教育支援室、学年担任、新入生ガイダンス、オリエンテーション、各賞、安全講習等の教育環境、学習支援の仕組みは、有効な活動を実施している。機械系において女子学生を増やす試みとして、オープンキャンパスにおいて積極的に女子学生用の相談コーナーを設置している。さらに、グローバル化の一環として、タイのキングモンクット工科大学トンプリ校(KMUTT)、スラナリー工科大学(SUT)、ポーランドのAGH科学技術大学とgPBLを実施している。また、創成ゼミナールにおいて、ブラジル人留学生、KMUTTの学生とのPBLの実施、学部講義の英語化(ロボティクス、流体力学、創成ゼミ、応用機械機能工学実験1・2、Mechanics of Materials Exercises)、gPBLの実施先の検討を行っている。	変更なし	工学部学習サポート室Webページ： http://www.shibaura-it.ac.jp/education/organization/support/engineering_support.html 【K06】芝浦工業大学ティーチング・アシスタント規程規程 図書館Webページ： http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 学術情報センター： http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 奨学金：CAMPUS GUIDE 2017 p30~33 http://www.shibaura-it.ac.jp/book/campus_guide_2017/ 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【T19】新入生オリエンテーション合宿資料 【T20】gPBL関連議事録 【J05】教員プロフィール
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)[1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	◎	シラバスには、科目ごとの達成目標、評価方法と評価基準、対応する学修・教育到達目標が明記されており、それによって評価されている。全てのシラバスは大学Webページの「芝浦工業大学シラバス検索システム」から参照することができる。	シラバスに「達成目標に対する評価対応と割合」の項目が追加され、到達目標に対する評価方法がより明確となった。	芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	「芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程」により、本学工学部の学生が本学以外の教育機関(大学などの教育機関及び文部科学省が認定した教育施設等)で学外単位等を修得した場合、教育上必要と認めるときは本学の単位として認定を受けることができる制度を定めている。この制度では、在学中に取得した学外単位と入学前に取得した学外単位はそれぞれ60単位を上限として本学の単位として認定を受けることができる。	2016年度より、学外単位は30単位から60単位(大学設置基準で規定されている単位)を上限として本学の単位として認定することになった。	【K26】芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【K28】編入学試験要項 【K29】マレーシア留学生編入学試験要項
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定を行った後に教授会で承認を得る。	変更なし	【K30】学外単位認定について(依頼) 【K31】工学部教務委員会報告
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程によって定められている。	変更なし	【K26】芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定を行った後に教授会で承認を得る。	変更なし	【K26】芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 【K30】学外単位認定について(依頼) 【K31】工学部教務委員会報告
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3)[1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	◎	学修・教育到達目標の各項目の達成度評価における評価方法と評価基準が設定されている。具体的には、卒業研究1・2の審査において、ルーブリックを導入するようになっている。なお、ルーブリックはガイダンス時に説明し、その後、掲示している。シラバスに評価方法と評価基準が明記されている。	卒業研究1・2の審査において、ルーブリックを導入するようになっている。また、シラバスに明記されている。	Web版シラバス： http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 添付資料編(表2) 【T06】卒業研究1・2_学習成果ルーブリックシート

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(3)[2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	◎	上記に示した評価基準に則り、評価が実施されている。	変更なし	【T21】卒業研究審査結果集計表
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)[1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	◎	2015年度、2016年度の応用コース修了生の履修状況によると、単位取得状況、授業時間ともに、全員が満たしている。また、学修・教育到達目標(A)～(H)に対するすべての該当科目達成の一覧表と学生個人の学修・教育到達目標の各項目に対する達成度の総合評価表を基に、学科教員全員で応用コース修了の判定を行っており、学修・教育到達目標は達成されている。	グローバル化への対応として、2015年度入学生より全員が応用コースを履修するようにプログラムが変更されている。微分積分2、線形代数2、微分方程式、確率と統計2、基礎熱統計力の5科目が選択必修から削除されているが、「応用コース」では機械機能解析学を必修としてカリキュラムを設計した。機械機能解析学は、これらの5科目に加えて、材料力学、流体力学、熱力学、機械力学、制御・システム工学の、機械系5分野を包括した科目として開講している。	【T01】2017年度学修の手引(機械機能工学科・抜粋) 【T09】第1510回JABEE委員会議事録 【T22】認定プログラム変更通知 【J04】応用コース履修者の「学修・教育到達目標」の各項目に対する達成度の総合評価 【J06】学科内関連委員会議事録
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5)[1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	◎	プログラムの学修・教育到達目標である(A)～(H)を達成することで、表2の内容を身につけることができることが示されている。	変更なし	【J04】応用コース履修者の「学修・教育到達目標」の各項目に対する達成度の総合評価
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	◎	工学部JABEE推進委員会があり、その中で学科の教育活動を点検している。工学部では学科別自己点検書を毎年作成して点検を行っている。学科JABEE委員会は、毎年学科カリキュラムの点検を行っており、学修プログラム全体および各開講科目が基準1～3に照らして妥当かどうかを検討している。学科内では教員間ネットワークと称して科目分野ごとにワーキンググループを組み、定期的に専門分野教員間で意見交換をし、学科JABEE委員会に報告をしている。	変更なし	【K11】工学部JABEE推進委員会議事録 【K32】2016年度工学部学科等個別自己点検書作成依頼 【J03】教員間ネットワーク議事録 【J06】学科内関連委員会議事録(学科JABEE委員会議事録)
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	学科JABEE委員会内での分担表、教員間ネットワークの構成およびそれぞれの役割については学科教員に対して周知され、学科JABEE委員会資料として配布されている。	変更なし	【T12】機械機能工学科継続的改善システム(PDCA) 【J03】教員間ネットワーク議事録
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	教員間ネットワークのミーティングは定期的に行われており、開催状況はJABEE総括担当が把握、学科JABEE委員会で活動状況が報告されている。	変更なし	【J03】教員間ネットワーク議事録
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	◎	授業アンケートや学生による教育評価アンケートにより、学生からの要望を吸い上げる仕組みがある。合同企業説明会参加企業へアンケートを実施している。また、外部評価委員会(大学基準協会大学評価)による点検も行われている。学生に対しては科目ごとの授業アンケートの他、卒業時のアンケートにより学修プログラムに対する意見聴取を行っており、毎年期初にアンケートの分析とそれに基づく改善、対策の検討を学科JABEE委員会でやっている。また、2013年度から2014年度にかけて学外からの学科へのニーズ、評価を知るため、就活関連で学科を訪問された全リクルーターに対してアンケートを実施した。各社担当リクルーターは複数年度担当するため、2015年度はアンケートを実施せず、内容の分析と次回アンケートについて教育改善グループが検討している。前回アンケートから2年の間隔をとったため、次回アンケート実施の検討を行っている。	2013年度から2014年度にかけて学外からの学科へのニーズ、評価を知るため、就活関連で学科を訪問された全リクルーターに対してアンケートを実施した。各社担当リクルーターは複数年度担当するため、2015年度はアンケートを実施せず、内容の分析と次回アンケートについて教育改善グループが検討している。前回アンケートから2年の間隔をとったため、次回アンケート実施の検討を行っている。	【K33】授業アンケート 【K34】学生による教育評価アンケート 【K35】合同企業説明会アンケート 大学点検・評価分科会 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/structure.html http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/index.html 【T23】OBアンケート 【J07】卒業生アンケート

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	◎	工学部教育点検システムとして、学校法人芝浦工業大学評価委員会、工学部JABEE推進委員会が存在し、自己点検・評価、外部評価、第三者評価が実施されている。 点検の仕組み自体も学科JABEE委員会で点検されており、学科JABEE委員会内の分担や教員間ネットワークによる点検の仕方について評価・改善活動がされている。	変更なし	大学点検・評価分科会 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/structure.html http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/index.html 【K32】2016年度工学部学科等個別自己点検書作成依頼 【K11】工学部JABEE推進委員会議事録 【T12】機械機能工学科継続的システム(PDCA) 【J03】教員間ネットワーク議事録
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	◎	教員間ネットワークでの議論は学科会議に議事録および提案書として報告され、学科JABEE委員会での点検については会議議事録として各教員に配布、学群書記センターに保存されている。	変更なし	【J06】学科関連委員会議事録
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	◎	学科JABEE委員会が、4.1(1)[1]に記述した点検活動の結果を利用し、プログラムの教育活動を継続的に改善する組織として存在する。学科JABEE委員会内に、2012年度より教育専門分野ごと教員間ネットワークを設置している。また、2015年度より本学機械工学科と相互評価を実施する仕組みを設けている。	学科JABEE委員会内に、2012年度より教育専門分野ごと教員間ネットワークを設置した。また、2015年度より本学機械工学科と相互評価を実施する仕組みを設けている。	【T12】機械機能工学科継続的システム(PDCA) 【T24】機械学群JABEE相互評価議事録 【J03】教員間ネットワーク議事録
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	学科JABEE委員会は、プログラムの教育活動を継続的に改善する活動を実施している。学生の学力水準の向上と教育プログラムの充実の状況、卒業時にとる全学ならびに学科卒業生アンケートからのフィードバックにより、2015年度より学科全学生に適用している。教員の教育力評価と向上のツールとしてSCOTを導入し、学科専任教員が順番に評価を受けている。また、工学部自己点検書委員会からこの自己点検書の確認チェック作業を受けており(毎年)、FD活動へのフィードバックの一助としている。また、2015年度より本学機械工学科と相互評価を実施している。	学科JABEE委員会の改善活動に加え、教育改善グループによる改善活動が実施されている。2015年度新入学生より、全学生に適用コースのカリキュラムが適用されている。また、2015年度より本学機械工学科と相互評価を実施している。	【T24】機械学群JABEE相互評価議事録 【T25】SCOT情報収集結果報告 【J06】学科内関連委員会議事録(学科JABEE委員会議事録) 【J03】教員間ネットワーク議事録 【J07】卒業生アンケート